

まず我々が変わること大事

平成三十年元旦

理事長 平山 良一



を何とか打開したい経営者の皆様には、組合が少しでも役に立つことを望んでおられると思います。

当組合では厳しい財政状況ながら、共同購入による資材の販売や、他では聞けない業界に特化した専門研修会の開催、協賛会の皆

様の協力で最新の機械や加工機、資材の展示をするミニ機材展、支部会や研修旅行、暑気払いや忘年会など組合員が相互にフランクに付き合える懇親会の開催など、年間を通して事業を行

っております。

しかしここ数年、こうした行事への参加者が減り、毎回同じような顔ぶれで実施をしていることも事実です。

組合員の皆様は組合に何を望んでいらっしゃるのか。例えば、数の力を強くし

て業界団体として大きな影響力を持つというのであれば、東京都正札シール印刷協同組合、神奈川県シール印刷協同組合、新潟県シール工業会など関東、甲信がひとつにまとまるということも考えられます。時代的に見ても他業界でも統合は進んでいます。

また、上記のような組合の活動がマンネリと感じられるのであれば、多くの皆さんのご意見から新たな事業を立ち上げることも可能です。

他にも、組合員が連携して大きな受注を狙う、共同生産体制の構築なども考えられますし、後継者のいない組合員同士で話し合いM&Aを進めることも考えられます。

昨年より組合役員の構成が変わり、次世代の若手経営者が役員に就任しております。こうした体制を生かすためにも是非皆様の活発なご指摘やご参加をお願い致します。組合は開かれていて、いつでも皆様のご意見を歓迎します。

近年は日本を訪れる外

国人が年間2000万人を超え、ますます増加すると考えられます。又、アメリカは参加しないもののTPP協定が成立し、環太平洋というよりアジアでの経済が活性化すると考えられます。国内の多様化、経済のグローバル化は猛スピードで進んでいきます。

一方環境問題は待ったなしで、昨年日本は化石賞という不名誉な賞をもらい、政府としても環境問題をな

いがしるにはできません。グローバル化と環境問題をどう並行させるかは、実は我々中小の取り組み次第だと考えます。我々がアクションをすれば、国が変わります。我々が変わろうと決意して行動すれば、本当の好景気が来ると思いま

す。それでは、明るい未来を信じ、皆様の組合へのご参加を切にお願いをして年頭のごあいさつとさせていただきます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。旧年中は組合員・会友、協賛会の皆様には組合運営に對しまして、格別のご理解とご協力を賜り誠に有難うございました。

さて、本年組合は創設から52周年を迎えます。創設時から半世紀、時代は大きく変化しました。組合もこの間に徐々に変化しましたが、これから厳しい時代を生き抜いてく若手経営者の方には物足りない位置付けになっていると思います。何を望んでいらっしゃるのか。例えば、数の力を強くし

て業界団体として大きな影響力を持つというのであれば、東京都正札シール印刷協同組合、神奈川県シール印刷協同組合、新潟県シール工業会など関東、甲信がひとつにまとまるということも考えられます。時代的に見ても他業界でも統合は進んでいます。

また、上記のような組合の活動がマンネリと感じられるのであれば、多くの皆さんのご意見から新たな事業を立ち上げることも可能です。



新年おめでとうございます。昨年は組合員、会友、協賛会の皆様には大変お世話になりました。

さて、業界は政府の景気回復基調の発表とは裏腹に景気回復の実感のないまま新しい年を迎えることとなりました。株価の高騰を見るとバブルの再来かとも思えますが、その恩恵を受けているのは一部の大企業に過ぎません。

その大企業は不祥事が後を絶たず、社長がテレビカメラの前で謝罪会見を開くニュースを見慣れてしまった感があります。

組合も一昨年五十周年を迎え、また、二十年ぶりの賦課金の改訂を行いました。が、平山体制も二期目となりましたが、組合運営も大

きな岐路に立っており、今後どう組合を運営していくのか試行錯誤しているところ。何といたっても組合の原点は『相互扶助』にあり、一社ではできないことをみんなの力でというのがその基本精神です。

大事なことは組合員一人一人がこのことを忘れずに自分たちの組合だという意識をもう一度持っていたらいいことだと思います。どうか今年もよろしくお願い申し上げます。

東京都中小企業団体

中央会会長 大村功作



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと、心か

らお慶び申しあげます。我が国経済は、平成24年12月から続く緩やかな景気回復の途上にあり、「いざなぎ景気」を超える戦後二番目の長さとなり、大企業の業績は二期連続で過去最高を記録するなど好調といわれております。しかし、中小企業・小規模事業者にとって、人手不足の深刻化、経営者の高齢化、頻発する自然災害などにより、景気回復の十分な実感を得られず、今年こそは、景気回復を実感できることを願う次第です。

本会では、一昨年の「組合アイデア大賞 i n T O K Y O」に続き、ビジネスチャンス拡大に向けた中小企業組合支援の一環として、組合の知名度アップや組合産品の展示・販売を通じた販路の拡大、地域の魅力発信の場としての全国一体となったイベント「組合まつり i n T O K Y O」を昨年8月に開催しました。僅か一日の開催ではありましたが、2,500人

の来場者を集め、盛会裡に終えることができました。本会ではこの結果を踏まえ、来年度の継続実施、開催日数の延長、出展スペースの拡大など実施内容の充実を東京都に対し要望しました。また、技術・技能継承事業の継続実施と支援内容の充実強化、技能尊重気運の醸成に効果的な「ものづくり・匠の技の祭典」の継続の実施や技能競技大会出場への支援拡充など、技能人材のスキルアップに対する取り組み強化についても要望しました。

一方、国に対しては、人手不足対策を含めて生産性向上対策につながるものづくり補助金の継続とフォロワーアップ支援の増額・拡充、さらには、中小企業の負担を大幅に減免し、かつ、使い勝手のよい事業承継税制の実現、そのうえ、中小法人を外形標準課税の対象としないこと、軽油引取税の免税措置その他時限措置の恒久化についても要望しました。

2月には平昌で冬季オ

びよんちゃん

リンピックが開催されます。その先には、開催まであと900日余りとなった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会があります。メダル獲得に向けての日本選手団の大きな活躍を期待するとともに、「中小企業世界発信プロジェクト2020」を積極的に推進し、経済効果が全国に波及するよう引き続きオール中央で取り組む所存です。

協賛会会長 西尾弘之



今年「戊戌（つちのえいぬ）」です。「戊（つちのえ）」の字は「茂」に通じ、「植物の成長が絶頂期にある。」という意味、「戊（いぬ）」は、「滅」（めつ）「ほろぶ」の意味で、「草木が枯れる状態を表す。」という意味で、両者を集約すると変化するということとなります。

明けておめでとうございます。本年も引き続き協賛会各社をお引き立て賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

力を取り組んでまいりますので、今後も引き続きご活用下さいますようお願い申し上げます。

結びに、平成三十年が皆様にとりまして、輝かしい年となりますことを心からお祈り申しあげまして、年頭のご挨拶といたします。

なりました。しかしながら、足元の実態としては賃金水準が伸び悩み、底堅い個人消費はあるものの力強さに欠け、なかなか好景気を実感できないというのが現状ではないでしょうか。

生産年齢人口の減少が進む中、各企業においては業務の効率化を進めつつ、従業員がより高いパフォーマンスを発揮し続けていくような働き方改革が求められています。そして一方では、産業界におけるIoTや人工知能といった技術面の革新・飛躍、あるいはビッグデータの活用促進などが、既存ビジネスの変革や別次元のビジネスモデル創造の機会になっていくのではないかと考えています。

表示や、見やすく誰もが分かるピクトサイン、さらには安心・安全を提供するセキュリティラベルなどの特需が見込まれます。また素材設計面では、森林認証紙や再生材料などを積極的に採用することが、環境面での訴求にもつながると考えています。

今年「戌（つちのえいぬ）」です。「戊（つちのえ）」の字は「茂」に通じ、「植物の成長が絶頂期にある。」という意味、「戊（いぬ）」は、「滅」（めつ）「ほろぶ」の意味で、「草木が枯れる状態を表す。」という意味で、両者を集約すると変化するということとなります。

明けておめでとうございます。本年も引き続き協賛会各社をお引き立て賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

戊年は、上昇が見込まれる“笑いの年”とも言われています。今年あたりからシール・ラベル印刷業界は、日本で開催予定のラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた需要が追い風となると思われます。多言語での情報

最後になりましたが、皆様を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

今年最後の支部会(忘年会)を 開催 GP認定と産業廃棄物について

今年最後の合同支部会が十二月五日(火)午後五時半より、台東区上野公園の「グリーンパーク」に於いて開催されました。



研修会で説明する清宮和夫氏と日本ウエストの小林武係長



今回は「GP認定工場取得について」と、「産業廃棄物について」と題した研修会を開催いたしました。

初めに清宮和夫氏が「GP認定工場取得についてこんなことをしたら取れる」と題して、配布したレジュメを使いながら、①経営者と従業員の認識一致②現場の整理、整頓、清掃③会社の姿、書類にして見え

る化をすればGP認定工場の取得はできると説明しました。

GP認定制度はまだまだ認知度が低く、シール印刷業界ではまだ十九社にしか過ぎず、今なら取得にかかる費用の半額が東京都から支給されるため、是非この機会に取得をと訴えました。

一方、日本ウエストは「産業廃棄物について」と題して、産業廃棄物に対する規制がますます厳しくなってきたことを資料を基に説明し、東京都では十月一日より処理量がキロ当たり四十円に値上がりしたこと

を説明し組合のRPF事業に参加すればキロ当たり三十三円であることや、GP認定工場取得でも、RPF事業に参加している組合員は有利になることなどが説明されました。

また、昨年十月一日以降一部の電池や蛍光灯ランプ、電気制御用のスイッチ及びリレー、水銀体温計、水銀式血圧計などの水銀仕様製品産業廃棄物、水銀含有ばいじん等・水銀を含む特別管理産業廃棄物、廃水銀等は、新たな対応が必要になったことも説明されました。

さらに、産業廃棄物の処理が適正に行われているかを把握管理するマニフェスト制度についても、事務処理が合理化され、事務作業削減につながる、電子マニフェストに切り替えるよう要請があり、今後組合としても検討していくことになりました。

研修会終了後は、午後六時半より別室に於いて恒例の忘年会が開催され、初めに平山理事長が「今年一年組合運営にご協力を頂きありがとうございました。厳しい環境下ではありますがさらに来年もよろしく願います」と挨拶し、高橋邦浩支部長の音頭で全員で乾杯しました。

今回はビンゴゲームではなく、福引大会となり景品が当る度に歓声が上がリ、最後のジャンケンポン大会では見事日弘プリントの大澤さんが「温泉一泊二食付きペア宿泊券」をゲットしました。

福引大会で盛り上がった合同支部会(忘年会)



ソウルプリンティングアワード

大東マーク工業が見事受賞！

ナルラベル部門で受賞しました。日本からは二社が受賞しました。

大東マーク工業が受賞したのは次のラベル。

岩崎鉄工社製LR3でのウェービングアップシール【特許第5837786号】・酒ラベル

岩崎通信機 Label Meisterでの長尺印刷・販促ラベル

またそれらラベルにスターティアラボ社製COCOAR2機能を付加したラベル

大東マーク工業の受賞理由は、「白インクの制御や、クリアインクによる特殊効果の再現が素晴らしい」とプロモーションナルラベルでの総合評価で今後一年間はソウルプリンティングセンタールにて展示される。

韓国・ソウル特別市とソウルプリンティングセンター共催の「第十二回ソウルプリンティングアワード&フェスティバル」が十月二十六日、二十七日の二日間、世宗文化会館（ソウル特別市鍾路区）で開催されました。

二十六日には、十二部門に作品がノミネートされた「プリンティングコンペティション」授賞式が実施され、海外部門で、優秀特別賞を当組合の株式会社大東マーク工業がプロモーション

今回の受賞を受けて十一月二十二日に清水社長が同センターを表敬訪問。金結鎬マネージングディレクターから表彰状を授与されました。その後同センターにて、七月に同社工場を視察したラベル印刷団体の幹部らと懇談しました。今回の受賞に清水社長

は「これもひとえに皆様のご指導ご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。これに機にますます技術面の充実研鑽に力を注ぎ皆様のご期待にお応えしていきたいと思っておりますので、今後ともご指導をよろしくお願いいたします」と語っています。



表彰された大東マーク工業の清水社長

臨時総会開催

村和印刷(株)を除名

十二月五日(火)午後五時より台東区上野の「グリーンパーク」に於いて、組合の臨時総会が開催され、東支部の村和印刷株式会社(代表者・村田忠和氏)の組

合除名が承認されました。同社は組合費を長期にわたって滞納し、組合からの内容証明郵便や配達証明郵便等再三にわたる督促にも一切回答がなかったため、十月三日に開催した理事会に於いて、組合定款第十三条第二項(出資金の払い込み、組合賦課金の未払い)の規定により、組合除名決議をし、その旨を通知いたしました。

組合員の除名は総会の決議事項であるため、この日の臨時総会となりましたが、弁明の機会を与えるので当日出席するように通知いたしました。これに対しては、何の回答もありませんでした。

臨時総会では初めに本間専務理事が本日の総会が定足数を満たしているため成立する旨が宣せられ、議長に平山理事長を選出して第一号議案・村和印刷(株)の組合除名について、本間専務理事から経緯が説明され諮ったところ、満場一致で可決承認され、同社は十二月五日付で組合を除名されました。

関東三協組で合同見学会開催 大阪のシール、インキ、版業者を見学

東京都正札シール印刷協同組合、神奈川県シール印刷協同組合、ラベル組合の関東3協組合同で、十一月十七日(土)に、大阪市内

にある3つのシール印刷関連企業の工場見学会が行われました。

まず、最初はシバタセスコ(株)さんを訪問いたしました。同社は粘着・接着加工や抜き加工に特色ある企業です。

剥離紙付きの巻き取り原反を、剥離紙を剥がしてダイレクトに巻き直して、小分けにカットする機械や、普通の平圧機を抜き加工専用機として使われている物、小さい加工品のための卓上程度の大きさの独自設計の専用機などが使われています。

その加工内容には目を見張るものがあり、参加者からも多くの質問を出され、非常に参考になる現場を見させていただきました。

また凸版間欠機等も実際に設置してあり、実際の

次に訪れた(株)Sakae Plusさんは、主に箔押し用の銅版や、マグネシウム版などの腐食製版に強みのある企業です。

八月より新社屋での操業がスタートしましたが、版の腐食における廃液処理や空調設備など、最新の設備に皆さん目を見張りました。

データの入稿からエッチング処理、最終仕上げまでが三階建ての社屋内でスムーズに行われるように配置されていたのも、新工場ならではのアイデアが盛りだくさんでした。

最後に訪れたのは久保井インキ(株)さんで、シール印刷用インキをメインに取り扱っている企業ですが、その小回りの利く作業現場は我々顧客に親身になって取り組んでいただける現場だと感じました。

また凸版間欠機等も実際に設置してあり、実際の

印刷機を使ってインキの研究や改良・トラブルの検証なども行っているという事でした。

見学会終了後の懇親会は心斎橋で行われ、大阪協組の疋田理事長を始め、他在阪業者様からもとても勉強になるお話を頂戴いたしました。

今回は当組合からは北島シール印刷、日本ラベル、サン技研の三社が参加しましたが、またこのような機会を設けられるよう各協組や協賛会との情報交換を密に行っていきたいと思っております。次回は二月三日に三條機械で研修会予定。

第一〇九回ラベル会
村田金箔広野氏が優勝

第一〇九回ラベル会 村田金箔広野氏が優勝

第一〇九回ラベル会は、十二月十二日(火)に、栃木県の「桃里カントリー倶楽部」に於いて組合員五名、協賛会七名の計十二名が参加して開催されました。

当日は真冬のような寒さの中、十八ホール、ストロークプレーの結果、村田金箔の広野忠臣氏が並み居る強豪を抑えて、五一、五七(HD36)のパープレイで見事初優勝しました。

二位には森下孝行氏、三位は平山理事長でした。

